

科目名	経営情報論／経営情報システム	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	木村 誠	実務経験の有無		○	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-31-B-1-420011	経営情報学部A：健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること			
授業の目的	情報の指数的増大を前提とした「産業規模の構造変化の鳥瞰」と「業務現場の細かい変化の把握」の両方を見立てることができる経営情報学の基本的な考え方を把握する。人と機械、物質、情報から構成される人工物をアーキテクチャ（機能と構造の分解・結合関係の基本設計思想）、モジュラー化、プラットフォーム、エコシステムの抽象概念から理解する。現場の業務をプロセス連鎖として改革するビジネスプロセスマネジメント（BPM）の基本的考え方を演習を通じて習得する。				
学修到達目標	<p>◎知識・理解の観点：経営、事業と情報技術（IT）の横断的領域の諸概念について学び、それを理解できる。アーキテクチャやプラットフォーム等の最新の抽象的概念を学び、事例から確認できる。ものごとの「見えない」本質について考え、自分なりの言語化、図式化ができる。</p> <p>◎思考・判断の観点：事例について異なる価値観（収益性、利便性、正当性等）の評価を基に包括した最適解を見だし、その意義を説明できる。</p> <p>◎技能・表現の観点：言語化、図式化を通じて、目に見えない構造について他者に説明、理解させることができる。ビジネスプロセスモデルのシミュレーション（計算機実験）の試行錯誤ができる。経営の優劣を作業時間と人件費（費用）の比較を通じて評価できる。</p>				
実務経験との関連性	米国製ソフトウェア販売代理店業務（営業企画推進）の経験を活かし、ビジネスプロセスマネジメント方法論について解説。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション：本講義の構成と進め方。週次課題レポートの説明
第2回	デジタルトランスフォーメーション（DX）：google革命（ビデオ鑑賞）。週次課題レポートの説明
第3回	モノのインターネット（IoT）戦略：IoTによる経営の見える化（コマツ事例）。週次課題レポートの説明

第4回	製品のアーキテクチャ：情報技術のシステムの性質。モジュラー化とインテグラル化。週次課題レポートの説明
第5回	製品プラットフォーム：製品プラットフォーム戦略。ソフトウェアプラットフォーム。週次課題レポートの説明
第6回	プラットフォーム商品普及：シングル/マルチホーミングユーザー。ビジネスモデル。週次課題レポートの説明
第7回	エコシステム：「初音ミク」事例のコンテンツ・エコシステム。週次課題レポートの説明
第8回	ビジネスプロセスマネジメント環境整備：Oracle BPM Suiteインストール
第9回	ビジネスプロセスエンジニアリング：ビジネスプロセスマネジメント環境整備の続き、A社概要と業務改革（BPR）方針の解説
第10回	ビジネスプロセスモデリング：BPMN2.0解説と現状業務（AS-IS）モデルの作成。週次課題レポートの説明
第11回	シミュレーションモデリング：作業工数（時間とコスト）の設定。週次課題レポートの説明
第12回	BPR（業務改革）モデリング1：自動化
第13回	BPR（業務改革）モデリング2：並列化

第14回	BPR（業務改革）モデリング3：セル生産方式。週次課題レポート解説
第15回	期末課題レポートの解説
第16回	期末課題レポートの質疑応答

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	Trelloを用いて次回のチェックリスト確認。事前配布資料の確認。これらに2時間を要する。
【復習】時間・内容	週次課題レポートに取り組むための調査、整理と思考、図示化と記述、そして提出。これらに2時間を要する。

成績評価	
評価基準・方法	週次課題レポート（60%）、期末課題レポート（40%）による総合的評価を行う。6回以上の欠席者は対象外として評価しません。
フィードバック方法	毎回、前回の週次課題レポートについて振り返り、解説する。Slackの「help-経営情報論」チャンネルでインタラクティブに対応する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）

教科書/参考書	事前に資料配布する。
受講上の留意点等	第8回以降は毎回、米国Oracle社開発環境（BPM Suite）を用いて作業を進行させます。PCの空き領域は3GB以上が必要です。PCを持参しない学生は授業進行に参加できません。
JABEE	